

# 令和3年産 大麦『ファイバースノウ』栽培こよみ

令和2年8月  
アルプス農業協同組合  
アルプス農協管内農業技術者協議会

大麦栽培のコツ: ① 早めの排水対策で単収を確保 ② 計画的なブロックローテーションで連作を回避

栽培管理のポイント	9月	10月	11~12月	積雪期間	3月	4月	5月	6月
		★播種前の排水対策は確実に	★耕起は丁寧に★適正播種量で苗立ち確保	★排水溝は随時手直しする			★赤かび病防除の徹底	

### 発芽・苗立ち確保のポイント 単収向上には初期生育の確保が重要

- 排水対策** → ① 稲刈り後、すぐに排水溝を設置 ② 畦幅は3m以内 ③ 畦高は20cm以上
- 土壌改良** → ① 石灰質資材の施用 ② 堆肥の施用
- 適正播種** → ① 10月上旬中心の播種 ② 適正な播種量 ③ 播種深度は3cm程度
- 播種後の管理** → ① 雑草防除対策 ② 排水溝の連結点検

### 排水対策

① 水口はしっかり止める ② 額縁排水溝は早めに設置する ③ 排水口は深く掘り下げる

④ サブソイラ等による心土砕砕で透水性を改善 ⑤ 播種直後に基幹排水溝を設置 ⑥ 排水溝は確実に連結する

### ポイント② 土づくり・播種

● 土づくり(pH矯正)

- 土壌改良資材を施用し、土壌のpH6以上を確保する
- 深耕により作土深を確保し、根域を拡大させる
- 基準となる基肥量を確実に施用する

★施肥の目安(10a当たり)

施用時期	耕起前	播種時基肥(下記のいずれか)	播種1ヶ月後	消費直後(2月下旬頃)	止葉展開期(4月上旬頃)
資材名	粒状石灰石 ※ 沖積土壌 150~200kg	OLP大麦48号 45kg	-	(追肥不要)	-
施用量	● 発酵けいふん(粒) 沖積土壌 150kg 洪積土壌 100kg	○ ハイマックス 燐加安444 40kg	硫安 20kg	硫安 20kg以内 茎数過多の場合減肥	硫安 10kg以内 生育量等に応じ施用

※土壌診断の結果 酸性が強い場合は多めに施用する

● 播種時期に応じ、適正量を播種する

- ① 播種適期は10月上旬
- ② 生育量を確保するため10月中旬までには播種を完了する
- ③ 栽培面積が大きい場合は9月末より乾いた圃場から計画的に播種する

● 播種時期と播種量の目安

播種期	目標苗立数(本/m <sup>2</sup> )	播種量の目安(kg/10a)	
		ドリル播	表面散播
9月26~30日	140	6.0	6.5
<b>10月上旬</b>	<b>150</b>	<b>6.5</b>	<b>7.0</b>
(10月中旬)	(200)	(8.5)	(9.0)

### ポイント③ 雑草防除

● 播種後、速やかに除草剤を散布し、肥料成分が雑草に奪われるのを防ぐ。(ただし、表面散播では使用できないので注意する)

【一般的な防除】

除草剤名	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法	適用雑草
ポクサー	播種後~麦2葉期(雑草発生前~雑草発生初期)	薬量 400~500ml 散布量 100ℓ	土壌表面散布	一年生雑草

【雑草が少ない圃場】

除草剤名	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法	適用雑草
トレファノサイド乳剤	播種後出芽前(雑草発生前)	薬量 200~300ml 散布量 100ℓ	土壌表面散布	一年生雑草(ツユクサ、カヤツリグサ、キク、アブラナ科を除く)
トレファノサイド粒剤2.5	播種後出芽前	散布量 4~5kg	土壌表面散布	一年生雑草

【カラスノエンドウが多い圃場】

除草剤名	使用時期	使用量及び散布液量(10a当たり)	使用方法	適用雑草
リベレーターフロアブル	播種後~麦2葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで)	薬量 60~80ml 散布量 100ℓ	土壌表面散布	一年生雑草
リベレーターG	同上	散布量 4~5kg	同上	同上
アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで(雑草生育初期)	薬量 100~200ml 散布量 100ℓ	雑草茎葉散布	畑地一年生 広葉雑草

※アクチノール乳剤はカラスノエンドウが3葉期を超えないタイミングで1~2回散布しましょう。

### ポイント④ 赤かび病防除

● 適期に2回確実に実施!

施用時期	薬剤名	使用量及び散布液量(10a当たり)
1回目(穂揃期(開花始め))	トップジンM粉剤DL	4kg
	トップジンM水和剤	1,000倍 / 150ℓ
2回目(1回目散布の7日後)	ワークアップ粉剤DL	3kg
	ワークアップフロアブル(無人航空機の場合)	2,000倍 / 150ℓ
	(無人航空機の場合)	10~16倍 / 0.8ℓ

### ポイント⑤ 緑肥作物による地力増進

● 主な緑肥作物

作物	クロタラリア
生育特性	草長 1.5~2m 生草量 4t/10a 程度
播種期	6月上旬~7月上旬
播種量	5~6kg/10a
すき込み時期	普通種: 播種後50~70日 フレールモア等: 播種後60~80日
特徴	窒素濃度は高く、土壌中での分解が速いため、肥料としての効果は高い

● 栽培体系と効果

栽培体系: 大麦(前年9月~当年6月) → クロタラリア(当年6月~9月) → 水稲(当年5月~9月)

効果: 大麦跡圃場の雑草とカメムシの発生抑制、緑肥作物による地力回復、緑肥跡の水稲栽培における基肥減肥

※安全安心な大麦を生産、販売するために『生産記録簿兼 GAP チェックシート』を記帳・提出しましょう。